

とうじいの山甲から

たいぶさみさき

大房岬自然公園ニュースレター No.124

2018年

冬



あけましておめでとうございます！
2018年も大房岬自然公園はたくさんの
「自然情報」や「イベント」を発信していきます。



Facebook・twitterを更新
しています。旬の情報を公開中。
「大房岬自然公園」で検索！

大房ウォーキング～景色展望コース～



- 展望塔 5~10分
- 第2展望台 15~20分
- 南芝生園地 10~15分
- 海岸園地 10~15分

MAP



冬ならでは大房岬

おすすめ

絶景

園内散歩コースは様々
自分に合った歩き方で
心地よい風を感じてみてください！

ポイント

注意！！
2017年10月の台風21号の影響で現在崩落箇所あり
※立ち入り禁止となっています



第2展望台

広大な東京湾が広がり冬の澄んだ空気には、遙か彼方に富士山が展望できます。



展望塔

見晴し最高！
内陸には富山、鋸山をはじめとする千葉の山々を眺められます。



南芝生園地

開放感バツグン！冬でも日差しが射しこみ、ポッカポッカ♪海からの風が爽快！みんなで芝生に座ってお弁当を食べるのに最適な場所です！



海岸園地

南芝生園地から少し歩いたところ、大房岬ならではの海蝕崖、澄んだ海と空気は最高の撮影ポイント♪



新年最初の清々しい散歩をしてみては… 場所によってはお気に入りの1枚が撮れるかも！

♪大房岬ご冬キャンプ♪



冬だからこそ…

レイチックアウト実施

→通常11時OUT→15時半OUT

貸切いただいた方

堅薪サービス

火持ち長持ち

→通常11時OUT→15時半OUT

大房岬キャンプ場は、通年で営業しています。(12/29~1/3を除く)
冬は混まないのでゆったり静かにキャンプを楽しみたい人たちにお勧めです♪
この魅力は冬だからこそ!!ぜひ、冬の大房も味わってみてください♪



・予約・問合せは大房岬ビジターセンターまで

(0470)33-4551

裏面：連載「たいぶさみさきまめちしき」へ



木々が葉っぱを落とした冬の季節は、バードウォッキングに最適！
そんな冬に大房岬でみられる小鳥たちを紹介します♪



ジョウビタキ 冬

「冬にみられる小さなお爺（ジョー）ちゃん」



スズメより小さく、頭の灰白色がもっとも特徴的！⇒おじいちゃんみたい。
雄雌に関係なく縄張りをつくって一冬を過ごします。人間のおじちゃんを
“爺”や“尉”と呼ばれるのは…ジョウビタキの“ジョウ”が由来でもあります。

漂 冬 シメ

「クリーム色の“木の実愛食鳥”」



特徴は、生きていくうえで最適な太い嘴！

これは木の実を掴みやすくするのと嘴の力を発揮しやすいように進化したもので。シメは、さほど警戒心も強くないので人が作った餌台や鳥小屋、ベランダなどにもよく顔を出してくれます。



漂 イカル 漂

「黄色いくちばしの器用な豆割り鳥」

見ての通り、この嘴をもつ鳥は木の実が大好きです！

大きくくちばしで地上に降りて木の実をつつく姿が冬のバードウォッキングの醍醐味でもあります♪黄色く目立つ嘴と灰白色の体が特徴的です。

イカルは、仲良し夫婦としても有名です。餌を探しに行くにもいつも行動を共にします。

留 漂 カワラヒワ

「深緑色が特徴のベジタリアン」



この小鳥は、本州でも多く見られる種で1年を通して見られます！

スズメの仲間です。おもに河原に生息をし、アワやヒ工を食べるのが名前の由来。

冬になると多くの暖かい地方に移動をします。

ちなみに地上では木の実を多く食べる“ベジタリアン”らしいです♪



冬 ツグミ

「冬には口をつぐむ鳥」

10月頃に集団でシベリアから渡ってきて、翌年の3月頃にまたシベリアへと渡ってきます。

冬を代表する鳥で胸を張り歩きながら食事をするのが特徴的。

留 留鳥：同じ地域に1年中生息し、季節移動をあまりしない鳥

漂 漂鳥：国内で季節移動する鳥。北海道で繁殖し、本州以南で越冬するものや、高地で繁殖し、低地で越冬するものなどがある。

冬 冬鳥：秋に日本より北の国々から渡ってきて日本で越冬し、春に北の国々へ帰って繁殖する鳥。

